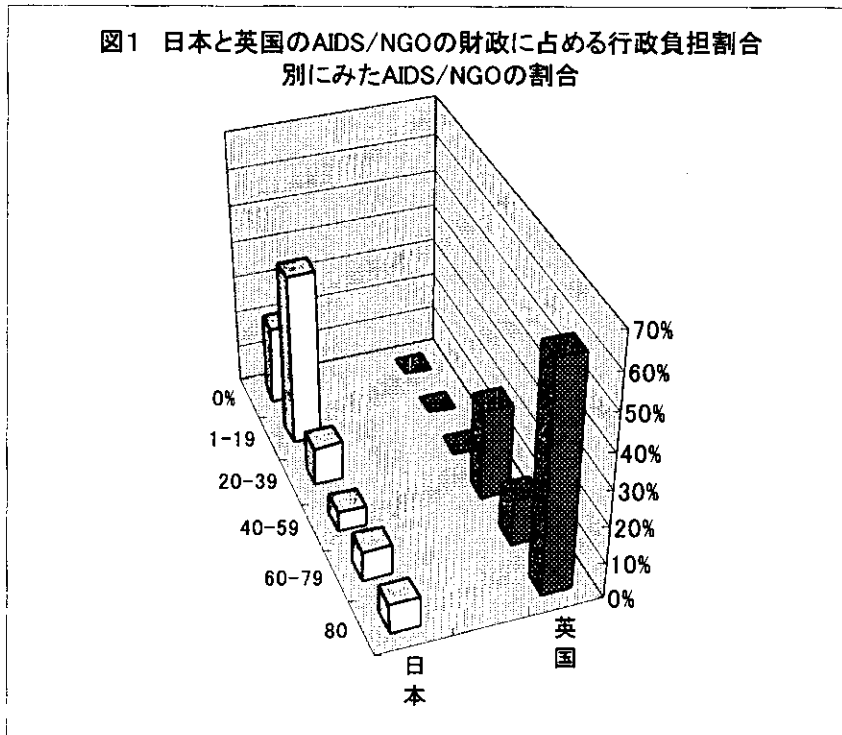


計画がたてられ、それに沿って計画的に委託される事業が、主な財政基盤となっている。



D. 考察

1. 英国のAIDS-NGOは、行政からも国民からも社会資源として認知されている。いずれのNGOも、相談や直接支援、健康管理から職業訓練・雇用支援までも実施しており、その数千万円を超える予算の中心は行政からの委託・助成金であった。このように、行政が資金面でNGOの活動を支え、NGOは地域に密着した全人的サービスを提供するという役割分担と連携がある。

2. 行政のAIDS対策は、必要などころに必要な対策を徹底的に行うという方針のもと行われている。たとえば、セックスワーカーにコンドームを無料で提供したり、ドラッグユーザーに新しい注射針を提供したり

という具合である。また、移民やオーバーステイの患者・感染者に対しても同質のサービスを提供する。さらに、合理的かつ機能的にNGOを活用し、患者・感染者へのきめ細かなサービス提供を実現している。

3. NGOは、HIV/AIDSをめぐる医療や社会状況の変化に柔軟に対応し、多様なニーズに応えるべく、努力と工夫を重ねている。地域ネットワークや文化的コミュニティを重視し、自らの役割に自覚と誇りを持った活動を展開している。

4. 高い人権意識のもと、患者・感染者をとりまく様々な職種の専門家と行政、NGO、地域住民、ボランティアの連携があり、どのような状況であっても最期まで前向きに生きることを支援するシステムが構築さ

れている。AIDS と共生する社会がある。

5. 英国のAIDS-NGOでは、いずれの機関においても財政の40%以上を行政の委託等が占め、行政の委託事業が活動の中心を占めていることが、継続的な幅広い活動を展開できる基盤になっていると考えられる。日本のNGOにおいても財政的な基盤の確保に務めると同時に、委託や委任業務を担う活動体制の構築が期待されるが、それとともに、行政機関においても、NGOの特質を活かした取り組みがいずれの地域においても展開できるよう、その活用を促すことが重要であるといえる。

6. 英国のAIDS-NGOは、行政からの委託・助成による事業がその中心を占めていることが、何より社会資源として認知されていることを示している。その背景には、患者・感染者の人権を尊重しながら、さまざまな課題に取り組む行政とNGOの連携がある。この点は、今後のわが国の事業に大きな示唆を与えている。

7. 類似したクライアントを対象としているイギリスのAIDS NGOの比較

今回の調査の対象のうち、アフリカン・コミュニティならびにBlacklinersとUAAFは、黒人とその他のマイノリティという同じようなクライアントを対象に活動している。イギリスでは活動資金が縮小していく中、たくさんのAIDS NGOが合併の道を歩んでいるが、これらのNGOは合併せずに、それぞれの組織の独自性を保ちつつ活動を継続させている。これらのNGOの状況、方針、交流、資金について調査することにより、他のNGOとの関係の中でどのように効果的に役割を果たすことができるのかということについて、何かしら日本のNGOが学べる

点が発見できればと考えられる。そこで、比較的議論を重ね、より詳細な資料をも入手することのできた、BlacklinersとUAAFの比較をすることは意味のあることと思われる。

上記のNGOは、大まかに言えば、黒人とマイノリティ民族という同じクライアントを支援しているが、よく見てみるとその中でそれぞれの特色があることがわかる。それらを峻別する特性は以下のような点である。

(1)UAAFはその名前が示すように、ウガンダ人コミュニティのみを支援する目的で始まったが、現在ではイギリスの他のアフリカ人コミュニティの人々もクライアントとして含まれている。しかし、Blacklinersがもっと幅広いアフリカ人、カリブ人、アジア人コミュニティに重点を置いているのに対し、UAAFはアフリカ人コミュニティのみに特に重点を置き、中でもいくつかのコミュニティを専門的に支援しているようである。

例えば、地方の保健機関は、イギリスのケニヤ人とザンビア人コミュニティを対象とした健康向上プロジェクトをUAAFに委託して行っている。これは、UAAFが特定のコミュニティに対して特別に知識と経験があることを物語っている。

(2)UAAFとBlacklinersともに、その収入は行政機関からの助成が大きな割合を占める。これらのNGOは、はっきりとした専門性を持っているため、政府としても効率的に資金の提供と個々のNGOに最適な委託プロジェクトの配分を行うことができる。

(3)これらのNGOは、それぞれのNGOが同じサービスをするのではなく、むしろ独自の分野に集中し、自分の所で提供できないサービスを必要とするクライアントについては、そのサービスを提供する他のNGOへ紹介するという形をとっている。例

例えば、UAAF は通訳や交通手段の提供といったサービスは行っていないが、これらのサービスが必要な顧客には、Blackliners を紹介している。

(4)この極めて効率的なネットワークは、NGO と GO 間でのコミュニケーションの良さにより築き上げられた。多くの UAAF と Blackliners のスタッフが、以前は違う NGO で働いた経験があり、定期的に NGO と GO の仕事の交流もある。例えば、Blackliners のスタッフの中には、以前地方の保健機関で公営住宅や保健アドバイザーといった分野で働いたり、UAAF 等他の NGO で働いていた人もいる。

以上、考察してきたように、イギリスの NGO と GO の間で存在するとともに強いネットワークは、NGO の明白な使命と identity、この使命というものをよく理解している NGO、そしてこの使命や専門性を元にクライアントを紹介し資金を提供する GO が存在する結果である。このネットワークが発展して来られた主な理由のひとつは、これら関係者の接触の多さにある。様々な委員会や統合団体以外にも、政府系、非政府系問わず個人的な交流が盛んである。マイノリティを対象とした HIV/AIDS ケアセクターで働く専門家が、違う NGO や GO の仕事に移ることによりその技能と経験を高めていくことは、ある種のキャリアとしてとらえられており、全体的にクライアントへのサービスの向上にもつながる。この様な状況は、NGO と GO の間に深い理解とコミュニケーションを促すものである。

以上をまとめると、要点は以下の通りである。

(1)今回調査した 2 つの NGO は、別々の団体として残ることができている。そして、はっきりと明白な使命と identity を打ち出すことにより、収入の大きな部分を依然として行政機関から得ることができている。

(2)サービスはクライアントに効率的に提供されており、NGO 間での重複は少ない。資金は NGO 間でその専門分野により効率的に配分されている。

(3)NGO の歴史がイギリスと比べて非常に浅く、NGO や慈善団体等がやっと最近 NPO として法的に認められるようになってきた日本とは大きく状況が異なるとはいえ、日本の NGO が自身の目的と専門性を強化し、イギリスでのものと同じような NGO ネットワークを作り上げていくことができるのかという点は、重要な課題である。

考察のまとめ

英国の NGO を調査した結果、いくつかの貴重なヒントを見つけることができた。その中でも第一のポイントは、NGO の目的に関する共通の認識を明確にさせることにある。その意味でも、AIDS-NGO の網領的な資料を整理し、作り上げていくことが、行政との確固たるパートナーシップを構築するうえで NGO にとっては不可欠のものといえる。

第二のポイントは、英国の AIDS-NGO は行政の委託事業が活動の中心を占めており、活動内容には各団体の自主性をいかしつつ、NGO 活動が重要な社会サービスの一環として認められ、不可欠な機能を果たしているということである。

強力で効果的で効率的な NGO 間でのパートナーシップや、NGO と GO (公的機関) との間の強いパートナーシップを構築することは、日本のエイズ対策にとっても、きわめて重要な点と言えるだろう。

E. 結論

わが国における NGO と公的機関のネットワークを強化し、効率的な NGO の活用の促進に資することを目的として、英国

の AIDS-NGO の他団体との協力関係について調査した結果、以下のことが明らかとなった。

行政の AIDS 対策は、必要などころに必要な対策を徹底的に行うという方針のもと行われており、英国の AIDS-NGO が行政からも国民からも社会資源として認知されている。AIDS-NGO の活動は行政からの委託・助成事業がその中心を占めており、HIV/AIDS をめぐる医療や社会状況の変化に柔軟に対応しつつ、多様なニーズに応えるべく、努力と工夫を重ねている。これらの活動の背景には高い人権意識のもとに感染者・患者を支援する行政と NGO の連携があり、AIDS と共生する社会がシステムとして構築されている。

F. 健康危険情報

なし

厚生科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

分担研究報告書

エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究

その4

諸外国における AIDS-NGO の活用状況に関する調査研究

（2）

オーストラリアにおける AIDS-NGO（非政府組織）の活動の実情

主任研究者	五島真理為 HIV と人権・情報センター理事長
分担研究者	新庄文明 長崎大学教授
	木下ゆり 同上名古屋支部事務局長
	赤松悦子 同上岡山支部代表
	中瀬克己 岡山市保健所医療専門監
協力研究者	伊藤葉子 中部学院大学講師
	重久マチ HIV と人権・情報センター東京支部
	ケイトリン・ストロネル 同上東京支部

研究要旨

(1) オーストラリアでの HIV/AIDS 発症分布を反映し(HIV 陽性の 80% はゲイである), NGO の多くの活動はゲイ社会に集まる傾向があり、ヴィクトリア州にある他の多くの NGO はお互いに強いパートナーシップを持っている。

(2) VAC/GMHC は財源の 75%を政府からの助成金でまかなえるため、有給のスタッフを多く抱えることができ（日本の NGO に比べ）、患者に対し広範で多様なサービスが提供できる。

(3) VAC/GMHC は GO にはできない、または非常に困難なサービスを提供することができ、VAC/GMHC と政府の関係は、互いが必要としあう「平等」あるいは「一体化」した関係を築いている。

(4) ヴィクトリア州における他の小さな NGO の中には、州政府からの資金の割合が約 40%というように非常に少なく、教会などの機関から資金と人材（ボランティアなど）の援助を受けることによって成立している。

A. 研究目的

日本の今後の NGO と GO の連携強化に資することを目的に、英国同様に社会全体で

エイズ対策に早くから取り組み、成果をあげているオーストラリアにおける AIDS NGO の活動について、とりわけ NGO と行政との相互関係を重視して調査を行った。オース

トラリアは多くの点で日本の状況とは異なるが、いくつかの自立した NGO の活動を通じて、得るところが多いと期待される。

B. 研究方法

オーストラリアのヴィクトリア州にある比較的小さな AIDS-NGO を研究者が直接に訪問した。対象はメルボルンにあるサン・ミッシェル・レジデンスを運営するオーストラリアエイズ基金、Positive Women、ヴィクトリア AIDS カウンシル/ゲイのためのヘルスセンターの3か所で、視察、インタビュー、パンフレットの分析を通じて、これらの NGO の活動内容を評価した。

C. 研究結果と考察

1 オーストラリアエイズ基金による サン・ミッシェル・レジデンス

1) 主な活動内容

サン・ミッシェル・レジデンスが提供する主なサービスは PWA の生活空間や食事の提供など、直接的な生活支援であり、サービスの概要は以下のとおりである。

・ 住居の提供

8人までの HIV+男性用の住居を提供する（もし主な世話人やパートナーが女性であれば、その女性も住むことができる）。

・ 食事の提供

昼食とディナーを共にとる。朝食と軽い夕食はセルフサービス。食事だけでは不足する住人のため、スナックも常時用意されている。栄養面が重視されており、調理や片付けなどはボランティアが行う。

・ 住人の 24 時間サポート体制

夜間でもボランティアが一人滞在し、各部屋にはブザーが設置され、緊急時にはボランティアを呼び出す。末期医療は別の

NGO であるロイヤル・ディストリクト・ナースズ (Royal District Nurses) の援助を受けている。必要に応じ、1日に2回訪問し、緊急時の夜間訪問も行なう。

・ 住居支援

この施設は一時的な住居であるため（別の NGO である）AIDS HOUSING ACTION の支援を受け、必要な人に対し、永住用住居を獲得する援助をしている。（公共の住居を利用するのに長期間待つことが時々ある）

・ 費用

安定収入がある住人は週 120 オーストラリアドルを支払う（手当は週 270 オーストラリアドルである）

2) スタッフと運営費

サン・ミッシェル・レジデンスでは、有給スタッフ1名と約 60名のボランティアが活動している。また、その活動基盤となっているオーストラリアエイズ基金 Australian AIDS Fund の運営委員会には、さまざまなバックグラウンドを持つ6人のメンバーがおり、サン・ミッシェルにおけるサービスを支えている。

運営費の40%はヴィクトリア州政府から提供される。この資金を得るため5~6種に及ぶ四半期報告書に書き込む必要があるが、年単位の補助金というより、それぞれの個別のサービス内容に応じた委託費用として費用の提供がなされている。

なお、資金調達のためには、郵便によって一般にも訴え、年間\$4000~\$7000を得ている。そのほか、カトリック教会からの助成金、個人的な慈善資金などもあるが、とくに建物は教会のもので Australian AIDS Fund は僅かな家賃しか払っていない。

3) 活動の特色

今回の調査の対象とした他の NGO に比べると、サン・ミッシェル・レジデンスおよび

びオーストラリアエイズ基金のボランティアや有給スタッフは共に、患者へのサービスよりも、資金確保のために時間とエネルギーをかなり費やさなければならないようである。政府からの資金を確保するので、多くの書類を四半期ごとに記入する必要があるため、時間のかかる大変な作業である。

NGO 自体が長期間にわたって活動を継続するという面からは、政府が資金援助している他の NGO より基盤が比較的脆弱である。

オーストラリアエイズ基金は、単に活動を続けられるか否かという深刻な問題に直面しているが、それでも資金の 40%は政府から出ている。それに比べると、大多数の日本の NGO は政府から 20%以下の資金援助しか受けていない。これだけでもオーストラリアの NGO に比べると、日本の NGO がどれほど困難な状況の中で活動を展開しており、その活動基盤は極めて脆弱であるといわねばならない。

4) 教訓と課題

ヴィクトリア州における調査の対象とした他の 2つの AIDS NGO は、ヴィクトリア州政府からかなり豊富な資金援助を受けていたが、サン・ミッシェルはビクトリア州で唯一の HIV 陽性者のための住居施設であるにもかかわらず、政府からは十分な資金援助を得ていない。

確かにヴィクトリア州にある全ての AIDS NGO が政府と強い関係を持っているわけではなく、政府から大部分の資金が得られているわけでもない。こうした状況においては、ボランティアは絶対に欠くことができない。教会などの他の組織が、NGO が存続し使命を果たすのを助ける役割をしている。

このケースは、政府と NGO の強いパート

ナーシップ構築という面では、まだ検討する余地がある例であるように思われるが、この理由に関しては更に調査する必要がある。また Australian AIDS Fund が関与する他のプロジェクトの財源への政府の資金提供について、ヴィクトリア政府との関係が同じ境遇であるかを見極めるため、今後も踏み込んだ調査を要する。

2 ポジティブ・ウイミン Positive Women

1) プロジェクトや活動

① 啓発/アドボカシー

・ トライアスロンを企画：2つの理由により意義深いことである。第一に広いコミュニティの支援が得られる。第二に女性は病気がちで不健康だとする自らのイメージが払拭できる。

・ 2001年の World AIDS Day に女性の集会を予定している。女優、名士、アブオリジニーを含む（ヴィクトリアにいる Positive Women を代表する）1000人の女性が議事堂の階段に集まり、演説を聞いた後、議事堂の中でモーニングティーを楽しむ計画。パンフレット、情報、そして赤色のリボンのついた‘女性’というロゴを出す予定である。

・ ロビー活動をする政治家：Positive Women は州議会メンバーと強い絆を持ち、資金提供の働きかけをしている（HIV+人口の 6%が女性であるのに、HIV/AIDS 支援のたった 2%しか受け取っていない）

・ 女性に関する学術的な研究をさらに行うように働きかける：例えば Positive Women は National Sports Institute に リポジストロフィーの研究を行うよう働きかけている。（リポジストロフィー女性のために考案した体操の開発など）

② PWA とその家族のための活動

・ 気軽な昼食会：PWA のために月一度開催。

情報提供する看護婦も参加

- ・ 母／子，母／娘の集い
- ・ 若者向けプログラム
- ・ ニュースレター：メンバー（約 80 名）に向け発行。不定期（およそ 6 週間間隔）に発行
- ・ 作家プロジェクト：グループには本を書きたがっている女性が何人かいる。そのうち 5 人は“Blood Ties”（血の絆）という本を出版し，HIV と共に生きることについて書いた。
- ・ 講演者プロジェクト：Positive Women は PWH を支援する他の団体と協力し，学校やコミュニティグループで自分の体験を話したいと思っている人の支援をしている。女性に話して欲しいと希望されることが時々あるので，Positive Women が助けをしている。スピーカーは講演料を受け取るが Positive Women はスピーカーが受け取るだけの料金しか支払わない。

2) スタッフと運営

有給スタッフ 2 名のうち一人は常勤，一人はパートタイム約 60 名のボランティア，約 20 名の活動しているメンバー，約 80 名のニュースレターを受け取る人々
運営チームは 8 名。かつて全員が PWH/A であったが，過去 2～3 年でこの規則が緩和され，現在のチームメンバーは全員が HIV+ というわけではない。彼らはさまざまな技術を持ち，どのように政府組織を扱うべきかなどを知っている。

3) 運営費

有給スタッフの賃金を含んだ Positive Women の資金の 90%はヴィクトリア州政府（健康とヒューマンサービス部門）が提供している。事務所の場所，コンピューター，訓練なども政府が提供している。残り 10%は資金調達活動や寄付からである。

Positive Woman は最近「免税待遇」を得たので，民間基金からの寄付や助成が得やすくなった。我々がインタビューしたこのグループの指導者は，政府が基本レベルの資金を出すのは当然だが，HIV+の女性自身が自ら稼ぐ能力を身につけることが特に重要だと考えている。

4) 活動の特色

Positive Women の設立は，その設立に際し政府があまり協力的でなかった点において，Victorian Aids Council とは異なっている。政府の巨大な財源が当時からそして今現在もエイズが蔓延するゲイコミュニティに投じられていることで政府から無視されていると感じた 2 人の HIV+の女性が，1992 年に Positive Women を設立した。政府は Positive Women に対し，有給スタッフの賃金と事務所の場所，設備を提供しているが，Positive Women からすれば，他の HIV 関連のコミュニティと比べたら，この援助はかなり低いレベルにしか見えない。

グループは一緒になってあるプロジェクトをやりたいとか，グループやボランティアからの援助を得て活動したいと思う女性たちのゆったりとしたネットワークで構成されているが，ボランティアが単に PWA/H 女性たちの「指導」「世話」をするのではなく，Positive Women は陽性の女性の，陽性の女性による，陽性の女性のための集団である。

HIV/AIDS の長い歴史の中，HIV がまさに死の宣告であった時代に，この団体はあらゆる新しい治療によってずっと長く生きられるように生活を支援するという役割を果たすことで HIV+女性のための「危機管理」を行った。Positive Women は新しい役割に変化や適応を与え，オーストラリア全土で HIV に取り組む団体としてはかなり小さいけれど，HIV/AIDS を患う特定のグループ

にとって適切かつ重要な存在である。

日本では小さな NGO が政府から資金を得ることはさらに困難を極める。その理由を掘り下げて調査する必要があるし、日本の NGO と政府も、さらに小さな NGO もある特定のコミュニティに対して非常に重要な役割を果たすことができるということを示すこの Positive Women の例から学べることはあるはずだ。

ヴィクトリア州政府はこの小さな AIDS NGO に対し、対象とするコミュニティにとって意味がある限り、コミュニティの規模が小さくても支援している。Positive Women はヴィクトリア州政府から多くの支援と資金援助を得ている。スタッフの賃金を支払ってもらえるので、スタッフはコミュニティに仕えることやグループ基金を増やすことに専念できる。

5) まとめ

オーストラリアのヴィクトリア州にある AIDS NGO である Positive Women の活動、提供するサービス、運営、資金に関する調査を行った。

ヴィクトリア州の HIV+人口に占める女性の割合はたった 6% と僅かだが、この NGO はヴィクトリア州政府から資金、運営面で大きな支援を受けている。

Positive Women は、メンバーとスタッフ、そしてサービスを受ける側である患者の数ともかなり小さな NGO であるが、他の NGO と強いパートナーシップを持つことによって、数多くの活動を可能としている。

3 ヴィクトリア・AIDS・カウンシル (VAC)、ゲイのためのヘルスセンター (GMHC)

1) 沿革と背景

1980 年代の初め、オーストラリアで初めて HIV/AIDS が確認されたのはアメリカと

同じくゲイ社会であった。この新しい病気が広がるのを防ぐ行動計画だけでは不十分だと考えた州政府は、新しく出現してきたゲイコミュニティ団体のメンバーを招き、効果的な防止策に対する助言を求めた。このようにエイズが確認された当初より NGO と GO は互いに必要とする関係に基づく強いパートナーシップを築き上げてきた。州政府はゲイコミュニティ NGO の積極的な協力なしには、ゲイコミュニティから役立つ情報は得られないし、NGO も活動を行うのに政府の資金が必要だった。

こうして、1982 年に、ヴィクトリア・AIDS・カウンシル (VAC) およびゲイのためのヘルスセンター (GMHC) は、州政府の全面的な支援のもとに自主的な活動を行うオーストラリアにおける初めての AIDS/NGO として発足した。

この関係は HIV 陽性の 80% がゲイであるオーストラリアでは今日まで続いており、NGO や GO という境界が関係なく、ほとんど一体化する程度まで政府が VAC/GMHC を強く支援する理由も納得できる。

2) 主な活動内容

① カウンセリング

有給の心理学者 2 名、有給のソーシャルワーカー 1 名、ボランティア相談員 22 名 (全員が有資格者で、その多くが個人で開業している) が、1 週間でおよそ 100 人の相談に応じている (PWA/H, PWA/H の友人や家族、ゲイやレズビアン (必ずしも HIV 陽性ではない)。電話でのカウンセリングも毎日行っている。

② 薬物使用者のための設備

建物の入口にある大きな戸棚に新品の注射針、綿棒などを用意し、使用済みの注射針を入れる容器も設けている。注射は許されていないが (これは違法である) IDU ではいつでも無料の注射針を入手できる。

③教育活動

- ・ 少数派で敏感な'若いゲイ'のための話し合いグループ, 研究集会を作る。(必ずしも HIV 陽性でなくても, 若いゲイのための活動をする) など
- ・ 他の NGO が企画しているイベントや活動を知らせる情報掲示
- ・ 学校, コミュニティグループで HIV/AIDS の話をする機会を準備したり, 話す人を訓練する。

④他の NGO との連携

VAC/HMHC は, 相談者の要求を他の NGO の方が満たせると判断した場合は, 当人にとってより適切なところを紹介するという外部とつながりを持ったサービスを行っている。売春に関する団体 Prostitute's collective, 陽性の女性 PositiveWomen, 正直者 Straight Arrows, Aids 住宅アクション (AIDS HousingAction) という他の専門的な NGO との広いネットワークとよい関係を結んでいる。

④PWA/H に対する特別サービス

PWA/H が専用で使用するリビングセンターは VAC/GMHC とは別に設置されている。ここでの設備やサービスには次のようなものがある。職業訓練 (コンピューター) マッサージ, reiki, アロマセラピー, 体操クラス (リポジストロフィー患者を対象とした), ヨガ, natroopathy, 理容, 食事, 食料銀行, 無料洗濯施設, 喫茶室, 中庭, 若者のための社交場, 法律と住居アドバイス

⑤診療所

メルボルンには, ゲイやレズビアン の健康問題と同様に HIV/AIDS に関わる医療を専門とする診療所が 2 つある。(AIDS 患者だけではなく, 誰でも診療を受けることができる)

3) 運営と財政

① スタッフ

45 名の VAC/GMHC の有給スタッフが教育, カウンセリング, ボランティア (採用とトレーニング) というさまざまな部門に配属されている。

約 700 名のボランティアがさまざまな仕事を行っている: 安全なセックスのためのキット, red ribbon を作ったり, 話し合いのグループや研究会の援助, ケアサポートなど VAC/GMHC のスタッフと費用を払うメンバーから選ばれた運営委員会がある。この委員会には感染者, VAC/GMH (ヴィクトリア) と VAC/GMHC のスタッフ代表が含まれている。

② 運営費

運営費の 75% (約 250 万オーストラリアドル) はヴィクトリア州政府から提供され, 残りの 25% は資金調整活動, 寄付, 料金収入, 会費から得ている。

4) 活動の特性

VAC/GMHC はそれぞれの特徴を持つ他の AIDS NGO とも強い関係を持っている。

HIV/AIDS に影響を受けるコミュニティも他にあるが, VAC/GMHC はそうしたコミュニティを直接扱うのではなく, 活動の対象をゲイコミュニティに絞り, 異なるニーズを持つ患者に関しては, 必要な分野の専門機関に任せている。このように, 政府とのパートナーシップだけでなく他の NGO とのパートナーシップこそ NGO が患者の要求に対して最も適切なサービスを与えることを保障する上で重要である。

ゲイコミュニティに関し, 政府は AIDS が問題となった当初より, 政府が手をつけにくい分野で NGO が重要な役割を果たせることを理解していた。静脈注射で薬物を使用する (IDU) コミュニティはこの例である。政府が直接に IDU に対し安全な注射針を与えると, 深刻な政治問題が生じるが, VAC/GMHC なら HIV 感染を減らすことが彼

らの役目だと強調することで、これを行うことができる。もちろん法律改正や安全な注射器具購入の資金提供という政治的支援は必要不可欠だが、NGO は論争を引き起こしそうな分野でも実際に活躍することができるのだ。IDC の人々も政府機関からではなく、VAC/GMHC の事務所から安全な注射器具を手に入れられることで、気が楽になっているに違いない。

日本にも何か適切な方法があるかを見極めるために、オーストラリアの NGO と GO のパートナーシップの正確な状況と、どのようにしてこうした関係が築き上げられたかをさらに調べていく必要がある。VAC/GMHC は日本のいかなる AIDS NGO よりもはるかに大きく強力であるから、その要求に応じて政府に自由で積極的なアプローチをする力や資源があるのかもしれないが、この組織を強くした1つの理由は、1983年の創立時から、資金面でも、倫理面でも絶えず政府の励ましを得てきたことだと思われる。

E. 結論

(1) オーストラリアでの HIV/AIDS 発症分布を反映し (HIV 陽性の 80% はゲイである)、NGO の多くの活動はゲイ社会に集まる傾向があり、ヴィクトリア州にある他の多くの NGO はお互いに強いパートナーシップを持っている。

(2) VAC/GMHC は財源の 75% を政府からの助成金でまかなえるため、有給のスタッフを多く抱えることができ (日本の NGO に比べ)、患者に対し広範で多様なサービスが提供できる。

(3) VAC/GMHC は GO にはできない、または非常に困難なサービスを提供することができ、VAC/GMHC と政府の関係は、互いが必要としあう「平等」あるいは「一体化」した関係を築いている。

(4) ヴィクトリア州における他の小さな NGO の中には、州政府からの資金の割合が約 40% というように非常に少なく、教会などの機関から資金と人材 (ボランティアなど) の援助を受けることによって成立している。

F. 健康危険情報

なし

Role and Activities by AIDS-NGOs for African Communities in London

Mary Gotoh ¹⁾ , Caitlin Stronel ¹⁾ , Fumiaki Shinsho ²⁾

1) Japan HIV Centre

2) Department of Preventive Dentistry School of Dentistry, Nagasaki University

A. Investigation of Uganda AIDS Action Fund (UAAF) (AIDS NGO in UK)

ABSTRACT

This research identified the following areas where Japan could learn important lessons from British NGOs regarding how to function effectively in relation to other NGOs and GOs, especially concerning funding:

- 1) By concentrating on its own mission and specialties and by being part of a cooperative network with other NGOs, which provide services that UAAF does not, it is able to provide effective service to its target clients (African communities in the UK);
- 2) By effectively communicating its mission and specialties within the network of NGOs and government organizations, UAAF is able to obtain support and funding to carry out their activities from government organizations.

1. Objectives

To investigate the UAAF as an NGO in Britain in terms of the partnerships UAAF has with 1) Government organizations and 2) Other AIDS NGOs with particular reference to how UAAF obtains and uses funding for its activities and projects. By examining and analysing the situation in the UK, we hope to evaluate which elements would be appropriate or useful for Japan and thus make concrete suggestions on how to improve NGO/GO networks in Japan as well as achieve more efficient funding and delivery of services to HIV/AIDS effected clients.

2. Subject and Method

A research team travelled from Japan to UK and interviewed a UAAF staff member. Questions asked were the same as questions in the surveys that have been used within Japan to investigate Japanese NGOs, thus ensuring easy comparison of UK and Japanese NGOs.

Annual Reports and other documents were obtained from UAAF and these were also used as reference material.

3. Results

1) Background & Mission Statement

UAAF was founded in 1987 by a group of Ugandans living in Britain who were concerned about HIV/AIDS in Uganda. Now the main focus of UAAF is on the impact of HIV/AIDS on Africans living in Britain, although UAAF does also support various programs and activities in Africa. UAAF now has 9 paid staff and 60 active members.

The UAAF Mission Statement is: "UAAF delivers high quality health promotion service, through the provision of information, preventative advice, support and advocacy on HIV/AIDS issues."

2) Main Activities

a) Educational/Awareness

i) produce a large variety of educational/awareness material such as posters, videos, flyers, etc.

ii) conduct training seminars and programs for hospital/clinic staff and statutory service providers on cultural issues that may affect access to these services by Africans.

iii) Health Promotion Activities are carried out on a community basis and include youth initiative programs (occasionally with parent participation). Also run peer education programs. Specific Health Promotion Programs have also started for the Zambian and Kenyan communities in the UK.

iv) Conduct regular telephone counseling for HIV/AIDS anxiety related issues/information and also conduct campaigns where there are another 3 lines.

v) Living Center: UAAF is working with a consortium of 11 African Organizations to

develop a Healthy Living Center project for African Communities living in South London.

b) Services for PWA/H and their partners/relatives

i) Telephone counseling: A hotline is open from 10.00 am to 10.00 pm and usually 3-4 calls per week are taken. Also peer counseling is available.

ii) Training Programs: Occupational training (computers) and life skills training are available.

iii) Other counseling services: legal aid, housing advice, helping with welfare procedures.

iv) Referral Service: UAAF refers clients to other NGOs that provide services that they don't (eg: transport, therapy etc.)

c) Support and Advocacy

There are many NGO and government bodies which UAAF belongs to, both African-related (Health First African, Brent and Harrow African Workers, etc.) and HIV/AIDS related (Pan London HIV/AIDS Providers Consortium, UK NGO AIDS Consortium, Expert Group for setting a target to reduce vertical transmission of HIV (Dept. of Health)). Through membership on these bodies, UAAF is able to have direct input into government policies and also to increase their strength dramatically by joining with other groups to influence government from the outside.

d) Research Reports

UAAF has presented reports on different aspects of their work at various different conferences. Often they will be part of a research team that includes members of other NGOs. Some reports that have been presented:

"The Voluntary Sector: A providers perspective"

"Addressing the Needs of HIV Asylum Seekers in the UK"

"Partnerships in developing sexual health education for young people in the community"

3) Funding

Total incoming resources in 1999 were 305,448 pounds (approx. 54 million yen) Over 90% of UAAF's income is from funding or grants received from government organizations. Donations make up the smallest percentage of income, with membership fees also being only 100 pounds (approx. 17,000 yen) in 1999.

3. Discussion

UAAF is a relatively small sized NGO in London, but it still manages to get funding from governmental organizations and to carry out a range of activities that are vital to the minority groups who are UAAF's target clients. This is because UAAF is very sure of its own identity, role and specialties and can project these effectively not only to client groups, but to government authorities, who fund projects that UAAF is best qualified to carry out. For example the Health Promotion Programs for the Zambian and Kenyan communities in the UK which UAAF is carrying out are commissioned by the local government health authority. This shows that the government recognizes the expertise that UAAF has in regard to these specific communities.

As well as having a close relationship with GOs, one in which UAAF and its purpose is understood and appreciated by the government, UAAF also has good relationships with other NGOs. Being on many committees and umbrella organizations means that UAAF has a good idea what other NGOs are doing and instead of attempting to rival other NGOs and do the same services, UAAF simply refer clients to the other NGOs that provide that particular service.

This large network made up of many different NGOs, each with their own identity, as well as local and national government authorities means that UAAF is able to combine with other groups to maximise effectiveness of service to clients and efficient use of resources.

4. Conclusion

Even though UAAF is a relatively small NGO, it is able to provide effective service to its target clients (African communities in UK) by concentrating on its own mission and specialties and by being part of a cooperative network with other NGOs, which provide services that UAAF does not. Also part of this network are government organizations which are very aware of the strengths of each NGO and support each NGO, including UAAF, to carry out their activities.

B. Investigation of Blackliners (AIDS NGO in UK)

1. Objectives

To investigate Blackliners as an NGO in Britain in terms of the partnerships it has with 1) government organizations and 2) other AIDS NGOs with particular reference to how Blackliners obtains and uses funding for its activities and projects. By examining and analysing the situation in the UK, we hope to evaluate which elements would be appropriate or useful for Japan and thus make concrete suggestions on how to improve NGO/GO networks in Japan as well as achieve more efficient funding and delivery of services to HIV/AIDS affected clients.

2. Subject and Method

A research team travelled from Japan to UK and interviewed a Blackliners staff member. Questions asked were the same as questions in the surveys that have been used within Japan to investigate Japanese NGOs, thus ensuring easy comparison of UK and Japanese NGOs.

Annual Reports and other documents were obtained from Blackliners and these were also used as reference material.

3. Results of Research

1) Background & Mission Statement

In 1989, some volunteers from other major HIV/AIDS organizations, including a journalist, Arnold Gordon, began what was known at the time as 'Blackliners Helpline' because of concerns that the needs of the black and minority ethnic communities were not being met in a culturally appropriate manner. Since then Blackliners has grown to become a medium sized HIV/AIDS charity working with over 400 PWA/H, employing 19 full time paid staff and 2 part timers and with over 100 active members. It is managed by black people for black people and other ethnic communities.

The Blackliners mission Statement is: "To promote the welfare of those members of the African, Asian and Carribean Communities in Britain who are infected or affected

by HIV/AIDS; to enable better sexual health amongst the target communities; and to promote the general health of the target population;

To provide education, information and advice about HIV and AIDS, sexual health and issues related to the health of Britain's black and minority ethnic communities to the general public, members of the medical and nursing professions, national, local and public authorities and in particular to members of the Asian, African and Caribbean Communities living in Britain."

2) Activities

a) Educational/Awareness

i) Mother to Child Transmission: In January 1999, the mothers of 60.3% of babies with HIV in the UK did not know their HIV status until their child developed AIDS. So Blackliners launched a major campaign to encourage pregnant women to have an HIV test in 1999. The campaign poster is of Spice Girl, Melanie B naked and pregnant.

ii) Health Advisory and Primary Prevention Service targeted at Young Black People: Blackliners is making a big effort to target young people who have not had the benefit of the HIV/AIDS education programs of the 1980s and early 90s and are largely ignorant of the risks they face as they reach maturity. Peer education is also emphasized, with Blackliners aiming to recruit 10 young people and train them as Sexual Health Peer Educators.

iii) Newline: published 4 times a year. Contains news reports from Blackliners as well as contact information for other NGOs and news from drug companies/newspaper reports etc.

b) Services for PWA/H and their partners/relatives

i) Drop in Center: has been open for 10 years. Run in partnership with Riverhouse. Has special programs for the newly diagnosed. All services/counselling etc. take place at the Drop in Center

ii) Therapies: stress management, aromatherapy, massage

iii) Housing Service & Home Care service

iv) Peer Education Project & Treatment Exchange Workshops & Forum

c) Support and Advocacy

i) Asylum Seekers: Many Blackliners clients are asylum seekers, so Blackliners work to support these people by lobbying against the 'dispersal policy' and lack of access to services. Blackliners also has a project that distributes food and clothing to those who

do not have access to welfare.

ii) Gay Men's Counselling Project: This was launched by Member of Parliament Stephen Twigg at the House of Commons in November 1999. It is the only Black Gay Counselling Project in London. The Black and Ethnic Communities have special needs in terms of culturally sensitive counselling and this project is providing an important service.

iii) Translation/Interpreting Service: for positive people as well as those getting tested.

3) Funding

Blackliners' income for 2000 was 738,146 pounds (approx. 130.7 million yen) of which 82% was from grants received (from government organizations). Blackliners don't charge fees for members, so there is no income from membership fees. Donations and gifts totaled 54,334 pounds (approx. 9.6 million yen) or 7.4% of income and payment for training seminars etc. totaled 58,936 pounds (approx. 10.4 million yen) or 8% of income.

Although most of Blackliners' income is from government authorities, their policy is to diversify their income source and to try to get more corporate support. Also they are involved in fundraising activities such as auctions and bazaars and held a major fundraising party with the help of Spice Girl, Melanie B who hosted the party for over 350 guests, including many celebrities, at her house. This party raised money by auctioning various items donated by companies (airline tickets etc.) and famous people (signed guitar from Bryan Adams)

Other than government organizations (national and local health authorities)

Blackliners' main sponsors are:

The Body Shop Foundation

Levi Strauss

Seventh Day Adventist Church

Bristol-Myers Squibb Ltd.

Dupont Pharmaceuticals Ltd.

(another 4 drug companies)

4. Discussion

Blackliners is not as large as the major AIDS NGOs in Britain (Terrence Higgins, Lighthouse etc.) but it is certainly one of the largest groups that focuses on blacks and ethnic minorities. Blackliners has a very strong identity and mission, as well as a very

clear picture of the needs of its clients, this is why it receives funding from government organizations and also why it can attract celebrities such as Spice Girl, Mel B to help with fundraising as well as publicity.

Blackliners also has good relationships with other NGOs. Being on many committees and umbrella organizations is a good way for NGOs to be in regular communication about both HIV/AIDS issues as well as African/minority issues. Blackliners has also made concrete partnerships with other NGOs to carry out a particular service-for example, the living center, which provides a number of vital HIV/AIDS related services for ethnic minorities, is run in partnership with Riverhouse and is also supported by local health authorities.

The creation and maintenance of a strong, effective and efficient inter-NGO partnership as well as a strong partnership between NGOs and GOs is an issue of vital importance to Japan and we can find some valuable clues by studying NGOs such as Blackliners. Perhaps the first step is to be sure of the purpose and identity of our NGO. Developing mission statements etc. is one step that NGOs can make themselves to begin the process of creating partnerships.

5. Conclusion

Blackliners has successfully established itself as a leading AIDS NGO for ethnic minorities in Britain and is attracting support and funding from government organizations, patrons and private corporations. The way it has achieved this is to be very clear and forthright about its mission and role in its community but at the same time, to be part of a network of HIV/AIDS NGOs and GOs.

C. Comparison of British AIDS NGOs with Similar Client Bases.

ABSTRACT

Although the situation regarding AIDS NGOs in Britain is quite different from the situation in Japan, this research identified the following areas where Japan could learn important lessons regarding how to function effectively in relation to other NGOs and GOs, especially concerning funding:

- 1) By maintaining clear, specific missions and identities, the 2 NGOs examined have been able to remain separate and still receive a large proportion of their income from government funding .
- 2) Services are provided to clients efficiently, with little double-up among NGOs. Funds are also allocated efficiently to NGOs according to their particular specialist area.
- 3) Inter-NGO communications and communications between NGOs and GOs is very smooth and regular and each have a good understanding of each other. This is partly achieved by movement of personnel between organizations

1. Objectives

To investigate the situation regarding 2 particular AIDS NGOs in Britain which have similar client bases (blacks and other minorities). In the face of dwindling funding in Britain, many AIDS NGOs are amalgamating, but these 2 have remained separate. By examining their situation, policies, interactions and funding, we hope to find some lessons for Japanese NGOs about how to function effectively in relation to other NGOs.

2. Subject and Method

A research team travelled from Japan to UK and interviewed staff members of the 2 NGOs, UAAF and Blackliners. Annual Reports and other documents were obtained from both NGOs and these were also used as reference material.

3. Results

- 1) Even though the 2 NGOs investigated broadly served the same clientele, blacks and